

理事長就任中の学会を考える

('94年4月～ 学会大会第24回～)

第6代理事長 鈴木 秀雄
(現理事長)

本学会は、前身である、懇親会、研究会、レクリエーション学会から、日本レジャー・レクリエーション学会へと時代と共にその名称や果たすべき役割も変化させつつ現在に至っている。多くの先人のご苦勞とその努力の延長線上に現在の学会が存在していることは論を待たない。この『日本レジャー・レクリエーション学会の歩み—1964～1995—』の中で歴代の理事長にあたる諸先輩方が就任時を振り返り学会の歴史を語られているので、現理事長として紙幅の関係からも、現在学会が抱える諸課題に対しての取り組みや今後改革すべきであろう事柄など、学会そのもの、そして学会運営について考えてみたい。

★学会が抱える諸課題

長年の懸案は、“会員の獲得・会員数の拡大”をどうしていくかという問題である。また会員に対するサービスの充実については、学会として何をすべきかという本来の目的の再確認をすべきだし、それによって入会者を増やすことができるのである。学会誌の定期刊行や学会大会の充実など会員サービスの向上をはかるためにも会費の徴収方法などの検討によりその納入率を高め、しっかりした学会の基礎財源の確保に基づく会員サービスが必要不可欠となる。

またレジャー・レクリエーションという広い概念の中で“研究活動と実践研究（活動）の融合及び活性化”をどう図っていくか、加えて外部機関からの多分野に及ぶ委託研究（プロジェクト）の獲得も学会の更なる発展に対して努力していかなければならない重要な課題である。何にも増して学会を効率的に運営していくためには“学会事務局の機能強化と共に強いリーダーシップが発揮できうる学会役員の民主的な選出方法の確立”をしていかなければならない。

★課題解決に対する現在の動き（対応）

本年（1995年）の第25回学会記念大会を期に研究発表と共に実践研究（活動）の発表に伴う研究と実践の融合による実践家と研究者の相互交流の活性化を試みたが、多岐にわたる演題の発表があり幸先の良いスタートとなった。この融合と活性化のために、さらに工夫を凝らし活動・実践を伴う分野・領域を扱う学会としての使命を果たし、市民活動への影響力も増していく学会へと発展していかなければならない。学会の歴史的なまとめ及び学会25周年の視点からは『日本レジャー・レクリエーション学会の歩み“1964～1995”～』の刊行を計画したが、学会そのものの存在や内容を詳細につかみ、今後の方向性を会員それぞれが積極的に見いだしていくためにも必要と考えたものである。

設置が二度目となる役員候補者選考委員会と共に、次期の役員選出に向けて役員選挙規程検討委員会を設置したが、通例の選挙で事足りるというのではなく、事務局機能との連携や、会長、理事長、事務局長、の人選も含めた総合的な選挙制度を作り上げる必要があり、そのような視座で役員選挙規程検討委員会は審議を深めている。大会開催地の市民参加の奨励については第24回大会に実現し、記念大会においても開催地である小田原市文化交流課を窓口として積極的な市民参加を求めている。財務委員会による会費納入制度については銀行口座より自動引き落とし等による会費納入の検討も進めているところである。複雑で複合的な課題に対しては、総務、財務、研究企画、編集、広報の各専門委員長及び理事長と事務局長とで構成されている特別委員会が設置されているので十分な審議をしていきたい。理事長が果たす役割は情熱を持って学会を運営し、方向性を見失うことなく強いリーダーシップを発揮すべきものと信じている。

多くの課題解決を必要とする今、会員の皆さんのご協力とご理解、そして積極的なご支援を切にお願いしたい。学会のため、現役員による地道な活動を今後も継続していきたいと思う。